

は じ め に

金沢大学保健管理センター報告書第6号をお送り致します。

保健管理センター業務が例年通り、つつがなく実施され、着々その実績があげられておりますことは、保健管理センター職員の御協力の賜物と厚く感謝致しております。第6号もその成果の報告であります。

昭和52年1月より宝町地区（医学部、同附病、薬学部、がん研究所及び医療技術短大を含む）に、その設置が待望されておりました保健管理センターの分室が開設されました。人員等の関係で、現在週3回の午後のみには救急処置、健康相談等に応じ、定期健診の事後措置、或は再検等を行っております。

宝町地区における分室の創設にあたり、医学部長梶川欽一郎教授及び関係職員、又開設にあたり、更に薬学部長山本讓教授及び関係職員の方々に、多大の御協力を得ましたことに対し、厚くお礼申し上げます。現在上記に述べました様に、御満足が出来る運営状態ではありませんが、今後充実したいと考えておりますので、よろしく願い申し上げます。

本号におきましても、第5号同様に、津川学校医より、“本学における放射線物質取扱者に対する健康管理の状況”についての論文と、学生部次長、稲場栄作氏が、“保健管理の歩みをふりかえって”の総説をおよせ下さいましたので、併記させていただきます。

稲葉氏は長い間、本学の名学生会長として勤務され、51年度で停年退職されました。その間、保健管理センターに対し、種々御指導をたまわり、センターの発展並びに、円滑なる運営に寄与される処大でありました。本報におよせ下さいました総説も、長い間の生きた御経験にもとずいた大学における保健管理センターのあり方についての的確なる評論であると云えましょう。今後、保健管理センター運営上の道標に致したいと考えております。稲葉次長の御指導に対し厚くお礼申し上げますと共に、今後益々お元気にの御活躍をお祈り申し上げます。現在は金沢女子短期大学の学生会長であります。

更に本学厚生部保健係長で、保健管理センター係長を併任しておられます川崎五郎氏が昭和49、50及び51年度における本学学生の休学、退学等調べの資料をおよせ下さいましたので、あわせ報告致します。川崎氏に厚くお礼申し上げます。

本報告が少しでも皆々様の御参考になれば幸甚であります。今後共尚一層の御指導と御鞭撻をお願い申し上げます。

昭和53年3月

金沢大学保健管理センター

所 長 村 沢 健 介